

第 33 回情報処理センター等担当者技術研究会の報告

共通機器部門 情報基盤機器管理班

松岡 大夢

1. はじめに

国立大学、公立大学等にて情報系センター等に勤務する技術職員が集まる本研究会は、大学における情報システムおよびネットワーク基盤の管理・運用に関する問題点や解決策を議論、共有することができる数少ない機会である。新しい技術を習得し、業務に取り入れ業務の効率化を図るとともに、他大学等の技術職員との繋がりを作るため、本研究会に参加した。

2. 期間・場所

期間：令和 4 年 9 月 21 日、22 日

場所：宜野座 IT オペレーションパーク、
オンライン (Microsoft Teams) とのハイブリッド開催

3. 参加者等

国立大学、公立大学等の技術職員、74 名が参加した。(うち 32 名が現地参加)

4. 研修内容

現状報告・研究発表・特別講演を聴講して、各大学等の情報処理センターが行っている取組みの状況や課題、その解決方法等を学んだ。

研究会の最後に行われた意見交換会では、各発表の中で質疑できなかったことや日々の業務での課題を共有し、その解決策について事例を基に議論した。

5. まとめと感想

今回、現地開催ということで準備を進めていたが、参加申し込み期限の 8 月上旬は新型コロナウイルスの感染者が全国的に急増していた状況だったため、やむを得ずオンラインにて参加した。

昨今の状況からオンラインで行われる研修に参加することが多いが、途中で音声が聞こえなくなったり、画像が動かなくなったりすることがあり、オンライン特有の問題を改めて感じた。コロナ禍でここ数年は現地での研究会等に参加ができていないが、発表の中で「知識習得には学内研修のみでなく、学外に出て学ぼう」と話されていた方がいた。技術職員同士、横のつながりもできるため状況を見ながら可能な範囲で学外に出て知識を習得しスキルアップしていきたい。